Save The Tropical Forests

ウータン

Hutan

121

森の通信　2016. 6. 28

2009 年 9 月に火災発生後、カリマンタンのタンジュン・ハラパン村人は植林作業開始。
(撮影・FNPF))

CONTENTS

・People(40)ＦＮＰＦ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p3
・現地報告を読む前に（現地の紹介）・・・・・・・・・・・p4
・現地報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5～p9
・アブラヤシ企業は消費者の力で変わる・・・p10～p11
・インドネシア泥炭復興庁と京大シンポ・・・・p12～p13
・パーム油学習会第４弾・・・・・・・・p14～p15
・伊勢志摩サミット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p16
・ウータン緊急報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・p17
・世界の森林ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・p18
・会計より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p19

Save The Tropical Forests
ウータン
Hutan

森 の 通 信

2016.6.28 121

［アブラヤシ開発等の乱開発や日本等の原発推進等の無政策がさらに温暖化加速させる］

2016 年は昨年 11 月から本年 4 月まで気温上昇の記録を更新して、最も暑い年になると NASA 等が指摘している。NASA 等によると 1997-98 年のインドネシア大火災の時にエル・ニーニョが猛威を振い、前年から翌年 4 月まで続いた。しかし今年のエル・ニーニョは NASA 等で 6 月末から 7 月まで続くと言う。この 5 月、東京で真夏日が 14 日続き、インドでは 51℃、アフリカ各地もエル・ニーニョのせいで 40℃近い所がある。

「2020-25 年までに気候変動に手を打たないと、3.5-4.5℃世紀末に気温上昇して取り返しがつかない状況になる」という新報告を国連は 5 月 4 日に出した。私たちは G7(先進国7カ国)サミットでもっと温暖化防止対策を示すと希望を抱いた。それは昨年 6 月、ドイツで開催された G7 サミットで 2010 年基準の CO2 等の排出量削減に 2050 年に最低 50%以上の削減を目指す(ドイツは 90%削減、米国も 85-90%、英国は 70%、フランスも 60%削減目指す、日本は 23-26%・2013 年比・原発稼働のない年)とのステートメントが一部にあった。だが 5 月 26-27 日に日本で開催された G7 サミットは、国連の新報告にも触れず、各国が温暖化防止削減のロードマップを策定して取り組んでいるのに、ロードマップを各国と協力して作るという文言も全くなしだ。また、再生エネルギーへの政策の内容が全くない。再生エネルギー普及というパリ会議の1つの骨子しかない。「パリ会議に遵守した取組みを目指す、SDG(持続可能社会)形成を図る」と G7 環境大臣会合文書でも発表されたが、羅列しただけで内容が全くない。それは、原発と石炭火力中心の政策だからだ。

環境省は 4 月 28 日に、「原発廃棄物の一般廃棄物に混入を認める」と。経産省は「原発の海洋投棄が安くつくから、新基準を策定したからそれ以下の廃棄物の受け入れを認める」という。海外から汚染原発ゴミを受け入れるも OK の文言である。環境省は環境政策を全く検討していない。FoE Japan からの「原発ごみを一般廃棄物に混入させる計画を止めよ」との緊急署名を拡げ、この無謀な計画を停止させねばならない。

各国のデータや取組みを見れば、環境政策だけでなく政府方針、企業方針が、15-20 年も G7 諸国から遅れている。世界を見ないから日本が経済的にも激減速するのは当然である。この政策では全くダメだ。

今年は暑くなるが政策がないからますます暑くなる。インドネシアでは世界的な温暖化により、今年もアブラヤシ開発地近くや泥炭湿地から発火して火事が広がることが予想される。乱開発、無政策がさらに温暖化を加速させるのだ。NGO が現地の火災予防体制の支援を拡充・温暖化防止へ努力するしかないのか。（西岡）

【ウータン活動記録】

2016・4・20 ［あどぼの放課後］で「大事だと思うことを大事にするに変えるプラン」話：石崎、武田
4・24 パーム油第4回学習会「システム思考で考えるパーム油事情」ゲスト：鈴木秀男氏
4・29-5・8 インドネシア・タンジュン・プテイン公園等調査：石崎、武田
5・16 ［マイチケット］とつくるネット番組「もうひとつの旅フォーラム」出演：石崎
5・23, 24 「市民の伊勢志摩 G7 サミット」参加 ：石崎、加納
5・25-27 「G7 伊勢サミット・メデイアセンター・ワーク」 加納、石崎
5・16, 5・26-28 「G7 環境大臣会合」「G7 サミット」につき批判点を流す：西岡
6・5 「インドネシア緊急報告会/インドネシア森林火災対策に向けて、今日本もできること」
報告：神前、石崎、武田
6・6 関西学院経済学部で「グローバル化の中での CSR」でワークショップ：石崎
（ウータン事務局会議：4/5、4/12、4/26、5/10、5/24、6/14、6/28）

People㊵ FNPF-Friends of the National Parks Foundation

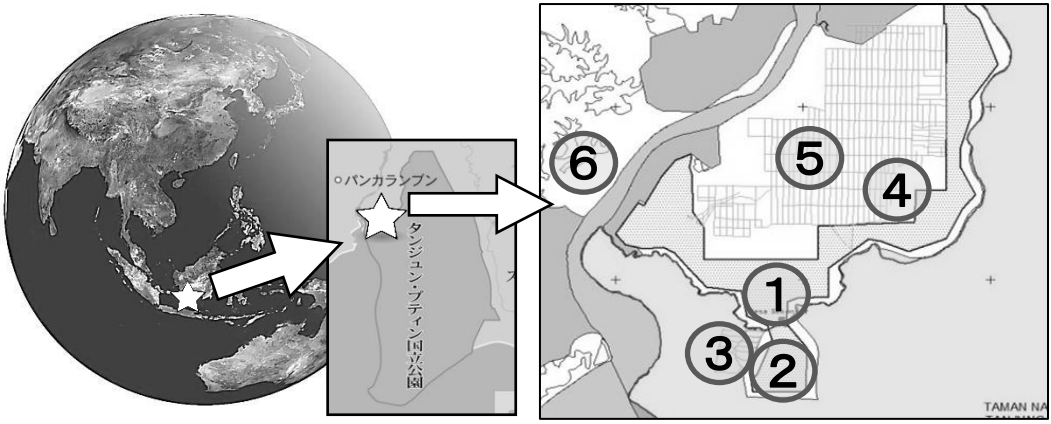
—Challenge Reforestation 再植林に再度挑むバスキ、ハドランたちー

タンジュン・プティン公園の原生林に近い森で。下中・バスキ/上中・ハドラン、右・高阪 （撮影・石崎）

森は豊かだ。大量の二酸化炭素を保持して多くの酸素を作り出す。森から水が湧き出て、生き物に一番大切な水をプレゼントする。朝、鳥たちの鳴き声が森でこだまする。空気がうまい。だが 2015 年大火災!!

カリマンタンの大学農学部出身のバスキ氏を除き、FNPF スタッフはこの地のハラパン村出身者が大半。1990 年前半から木材王・ラシッドが違法伐採し、国立公園の森の 1/3 は破壊された。セコニア川流域の大半の村人やトルク・プライ村、クマイ町の多くの人が違法伐採に従事していた。ハドラン達も違法伐採の作業をしていた。だがある事件から変わる。違法伐採調査の Telapak/EIA の一部のメンバーを一時拉致し、その後の聞込みのジャーナリストを死の寸前まで追いやった木材密輸王。これらの事件や金の支払いにも関連し、村人、軍隊、木材密輸企業が抗争した 2003 年。「止めだ。木材密輸にこれ以上加担したくない」とハドランが木材従事を辞めた。多くの人も辞める。「違法伐採に従事していたことを恥じるよ。その違法伐採が全て停止して元の仕事に戻ったよ。そこで私は FNPF の存在を知って仲間になった。森を守り、火災を起こさないようにする保全が大事」とハドラン氏が言う。バスキは「ハドランがいるから助かる」と。FNPF にとっては重要な人物の1人だ。2015 年火災にも協力した多くの村人。新しく苗作り団体 Perita Sembilan も結成され、タンジュン・プティン公園の森林再生作業がまた始まる。「火災に強い森作り」と「緑の回廊」を目指して。挑戦!!

タンジュン・プティンへ行こう。世界の森林保全へ原生種植林を拡げるために・・・。（文・西岡）



①セコニャール村（別名：タンジュン・ハラパン村）

元々その森に生えている樹種の苗を作るグループや、FNPFという希少生物保護の為に森林保全等に取り組む現地NGOがある村。ウータンのエコツアーではホームステイ等の活動を行う。2012年まではエコな暮らしを目指していたが、アブラヤシ企業から中心人物達が接待を受ける等して、今は村人の大半がアブラヤシ・プランテーションで働いている。

②ブグル

植林が盛んに行われていたエリア。2015年火災では比較的多くの人々が消火、事後植林に参加した。

③パダンセンビラン

少数の移住者が農業を営む。セコニャール村の苗づくりグループが活動を行っている場所。

④ジュルンブン

プランテーションと森の間でFNPFが総合教育センターを作っている場所。アグロフォレストリーを目指して金銭的価値の高い作物の栽培や苗作りの実践、植林による原生種植物園の構想等がある。森との共生を学ぶ場。

⑤アブラヤシ・プランテーション

パーム油原料のアブラヤシだけを栽培する単一作物大規模農園。森を皆伐し、土壌を乾燥させる等の環境破壊を伴う。パーム油は身近な食品・洗剤・化粧品に使われ、日本人一人当り年に4kg 以上のパーム油を消費していることになる。

⑥クマイ

セコニャール村から一番近い港のある町。FNPFの事務所や、村の子供の一部が進学する高校がある。

ウータン・森と生活を考える会は、「森を守りたい」と願う熱い心をもった人々が集まった市民団体です。

オランウータンなど 数多くの生きものが棲み、先住民にとっても生きる糧を与えてくれるボルネオ島の自然豊かな熱帯林を、国内外のNGOや現地の 村人と共に、減少を食い止め回復し保全する活動や森林減少の要因となっている商品の消費者としての私たちの日本での生活を考える活動を２５年以上、市民の力ですすめてきました。

2016 年 GW インドネシア報告

『インドネシア森林火災対策にむけて、いま日本からできること』

生きている時間を感じる村

タンジュン・ハラパン村の小学校付近では、いつものように村の子どもたちが水路に飛び込んで遊んでいた。カメラを向けると、「いくぜ！」というポーズを取って、前宙やバク宙で鮮やかに飛び込んでいくので、毎度の事ながらヒヤヒヤする。そのような光景を見たときだったか、村の道に生えている青い果物の実を採って、「まだ、苦いね」と言いながらほおばった時だったか、ふと、「あ、いま生きているな」という実感に思い当たった。うまく表現ができないけど、村に流れる時間の流れと僕の体に流れる時間が調和したような気がした。

その感覚を引きずってしまったからか、日本に帰ってからは、「いま生きてないな」という感覚に悩まされることとなった。日々の流れは早く、足早に歩く人波に飲まれても、電車に揺られていても体がついていかない。ジャンクフードのチェーン店の看板を見ても、スマホの広告を見ても欲求もわかない。

実は仕事をしていても、その感覚は離れなかった。書類、電話、スケジュール、そこに生きている時間はあるのか？たとえ非営利な活動であったとしても、本当に現場で必要とされ、社会を良くするものなのだろうか？

今回の訪問では、改めて僕たちの行っていることが、「生きた活動なのか？」を自問するきっかけとなった。

「友達なんだから、支援はいらないよ！」変わらないバスキの言葉

FNPF のオフィスで、「消防用具は何が必要で、日本では何が買えるか」等あれこれ話をしている時に、バスキがいつものように言ったこと。**「友達なんだから、支援はいらないよ！」**。彼は、初めてウータンから寄付を渡そうとした時と全く変わらないことを繰り返した（あの時はもっと頑固で、こちらも引かずに一晩語り合ったのだが…）。

> もちろん、FNPF は消防用具を必要としているし、お金だって足りない。…でも、無ければ無いで、あるものだけでなんとかすればいい。資材やお金はたしかに大切だが、正直言うとウータンから何かを貰えなくてもいいと思っている。最も大事なのは日本からわざわざやってきてくれる友達であるということだ。Mr.西岡や Mr.神前、みっしー、みんながここに来て、一緒に考えてくれる。それこそが最も重要なんだ。お金も物資も、支援はいらないよ！友達なんだから…

非常にシンプルだが、「友達だから」という言葉は、FNPF に惹かれ、ささやかながら支援を続ける僕たちウータンメンバーの気持ちを表す言葉でもある。

その後、僕はこう言った。「僕たちは FNPF をサポートしたいわけじゃない。昨年の酷かった森林火災の話を聞いて、仲間として一緒になんとかしたいだけだ。僕たちはサポーターじゃなくて、志を共にする仲間じゃないか！」

バスキはひどく嬉しそうな顔をして、「Thank you, my friend」と言った。

スピリットはまだ残っている

ウータンが長年支援してきたタンジュン・プティン国立公園内の森林再生地である『ブグル』、アブラヤシプランテーションの境界線に設け、大規模開発に頼らないオルタナティブな森林農法を実践しようとしてきた『ジュルンブン』。その二ヶ所ともが、2015 年の大規模森林火災の被害に遭い、悲惨な爪痕を残していた。「10 年ここで木を植え続けてきて、ほとんどが燃えてしまった。正直もうエネルギーは残ってないよ…」バスキはやや疲れた顔でそうつぶやいた。

「でも…」左胸を拳で叩きながら、彼は言った。「僕も年をとったし、家族もいるから、いつかはここを去るだろうけど、その前に若い人に残さないといけないものがたくさんある。まだエネルギーは残っているし、スピリッツもある」エネルギー（やる気・気力・体力）は一時的に無くなっても、根底にあるスピリット（魂）はまだ消えてはいないようだ　。

本当に必要なのは人とコミュニティへの支援

「火災対策においてなにより大事なのは、モノでもお金でもない。人とコミュニティがやる気になって、火災対策に取り組む気持ちにさせること、それが重要だ。その土地に住む人が、自分たちの森を守るようにならなければ、同じことはまた繰り返されてしまう」バスキは出会った時から、人とコミュニティこそが大事だと常に強調してきた。そのスタンスは今でも変わっていない。「同じ目標にむかって、みんなで意識を共有することが大事なんだ」

昨年もお金がない中で、自然発生的に人が集まった。『Care For Tanjung Puting』はガイド、NGO、国立公園スタッフなどバラバラに活動していた人々が消火活動で集まり、森林火災後の再生にむけて結成されたグループだ。

森にいることは私であり、生きることであり、すべてである

バスキが FNPF の友人と 2005 年にブグルへ来たとき、プログラムも POS もお金もない状態だった。１年間森でキャンプをした。2006 年に大きな火災が起き、苗が燃えた。１ヶ月火災と戦った。当時まだ小さかったアドゥ、トゥヤン、イサム、アジスなどたくさんの人が共に消火活動に参加した。しかし１ヶ月ハードに戦って、バスキはストレスに耐え切れず投げ出して実家に帰ってしまい、ずっと寝ていた。アドゥやイサムが電話をかけてきたが気にしなかった。しかし、皆、ハドランも火と戦い続けていた。毎日森のことを考えて 2 週間が経ち、戻った。雨が降って火は消えていた。みな怒っていたが…　バスキは言う。「私にとっては、FNPF で働くことは単なるプログラムである。しかし、森にいることは私であり、生きることであり、すべてである。それを説明するのは難しい」

インドネシア森林火災対策にむけて、いま日本からできること

さて、これまでの話しを踏まえて、日本からできることはなんだろうか？　「友達だから支援はいらないよ」その気持ちはしっかり受け取っておくとして、実際に本当に必要される資材や資金はしっかりと日本で集めて支援したい。

すでに昨年末からの報告会等によって集めた寄付は、ジェットシューターを購入し、いただいたリュックサックとともに現地へ運んでいる（貴重なご寄付をいただいた方、本当にありがとうございました）。

まだまだ必要な支援を募るため、ウータンではファンドレイジングとして、助成金に申請すると共に、次の二つを中心に活動を進めている。

クラウドファンディング

インターネット上で寄付を集めるクラウドファンディング。CAMPFIREというサイトで､｢ボルネオの森林火災を現地 NGO と協力して止める！｣というタイトルで募集を開始しました。

消防備品の購入及び輸送、消防チームの食費や交通費等を支援します。

ご寄付いただいた方へのお礼として、ジュルンブンで採れるロセラで作った茶葉を村人手作りの手編みバッグに入れたロセラティセットや､『ご寄付くださった方の苗』をブグルなどで森林再生のために植えるプランをご用意しました。クラウドファンディングの URL は、ウータン・森と生活を考える会のウェブサイト【http://hutangroup.org】にアップする予定です。

（ウータンへ直接のご寄付をお考えの方は、ご連絡ください）

エコツアー

今回のエコツアーは 8 月 26 日～9 月 2 日で開催が決定しました。

今年のエコツアーでは、消防訓練を参加型のゲーム方式で行うことで、森林火災対策にむけた村人の意識を高める啓発イベントを行う予定です。また、支援物品やクラウドファンディングで集めた資金をエコツアーで運び、現地で役立てたいと考えています。

消防ホースとポンプを日本から運びたい！

まだ詳細を公表できないが、とある日本の消防局が消防ホースとポンプを用意してくださっている。直接交渉しに行った Y さんの熱い想いに、男気溢れる隊員が発起して多くを集めてくれた。しかし、インドネシアに運ぶにはいくつかの壁がある。輸送費や関税をはじめ、インドネシアが中古品を規制していることや、受け取り手にライセンスを課していることなど制度上の壁が大きい。しかし､｢なんとかなるはず！｣と同じような支援実績を持つ大学や NGO へアドバイスを求めたり、大使館へでかけてみたり、とこれまでになくいろいろな方面にアプローチを続けている。その中で、また新たな人とのつながりや人の心の温かさを実感している。日本からの支援は現場の士気を高めるだろうとバスキは言う。なんとかして運ぼう！そこに不可能はないはずだ！（文章：石崎）

2016 年 6 月

ゴールデンウィークの現地報告（2016.04.28～05.08）

2016 年ゴールデンウィーク。私にとって 4 年ぶり、4 度目となるインドネシアへの渡航でした。久しぶりに友人達に会える喜びと、日本の皆さんの気持ちを背負っているという責任感と、山積みの課題にどう立ち向かおうかという不安とを抱いて、飛行機は懐かしいパンカランブン空港に到着しました。

今回の**主な目的**としては、**①**寄付を募って集めた**支援物資・支援金を届ける事**、**②**2016 年火災に備える**消防チームメンバーとの関係構築**、**③新しく取り組むクラウドファンディング**（インターネットを通じて、ある具体的な目的のためにより多くの人から資金を集めること。）の準備、等が挙げられます（実際の打合せ事項はもっと盛り沢山でしたが、ここでは森林火災対策に関して報告させていただきます。）。

①について。一つ目は火災発生当初から寄付を呼び掛けて購入した**「ジェットシューター」。最後の２つ**を無事にお届けしました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！目標としていた 6 個購入が果たせた事、私達にとっても大きな自信に繋がり、次のプロジェクトを立ち上げるパワーになっていると感じます。二つ目は**大きなリュックサック。**消火活動は長期間森に滞在して行われるため、キャンプで使用する様なものを要望されていました。皆さんに使わなくなったものがあれば…と呼び掛けたところ、続々とお送りいただいています。今回は 8 個を第一便としてお届けしました。三つ目にクリーム色の**格好いいＴシャツ**。佐藤さんのご兄弟がバンド活動をさ

れており、限定品として作られたものの一部を寄付していただきました。四つ目は靴。西岡が以前職場で使用していた**「安全靴」**にバスキーさんは大喜び！もし同様に使わなくなった安全靴をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡下さい。同じく安全靴として、火災後も植林のために現地に入られた丸山サチコさんから、植林メンバーにと預かった 8 足の靴を届けました（very heavy!）。火災によって焼失した森の再生に活用していただけることでしょう。

②について。2015 年の最大級**エルニーニョ**と、止まらない開発による**土地の乾燥、火付け**が原因で起こった**大規模森林火災**。これに対して現地では、NGO、ガイド、学生、国立公園スタッフ等多くの方が消火活動に当たりました。2016 年はそうした各セクターの垣根を越えて、**12 人の精鋭チーム**を立ち上げる計画が進んでいます。スマトラから知人のトレーナーを呼んできてプログラムを受けるなど、テクニカルな事も含めてきちんと習得し、可能な限り装備が整った特別なメンバーにしたいとの事。希望者が多く、12 人に絞っている段階との事でした。メンバー入りがほぼ確定している方も何人か居ます。中でも FNPF のアドゥさんは、国立公園職員とリンバロッジ(セコニャール村上流の宿泊施設)職員と共に WWF の研修プログラムでオーストラリアの国立公園へ消防研修に行くなど随分本格的でした（我々の滞在期間が研修期間だったため、会えなかったのは残念。)。右上の写真はフェブリーさんというセコニャール村出身の少年で、FNPF メンバーではないものの、昨年も大活躍した期待の新人です。FNPF のオフィスによく来ていて、一緒に UNO で遊んだり、帰国後も Facebook でやり取りをしたりしています。インドネシアも就職難だと聞きますが、彼もフリーターだと言います。村人の多くがアブラヤシ開発に従事し、パームプランテーションの消火活動には賃金が払われる状況の中、FNPF と共に**森を守ろうとする彼の様な若者を支える存在に私達がなれないものでしょうか！？**

③**クラウドファンディング**は、そんな思いを実現させる、新たな試みです。8/26～9/2 のエコツアーで 12 人の消防戦士に活動資金を渡せる様、7/20 を期限として募集を始めました(https://camp-fire.jp/projects/view/6983)。必要不可欠な、現場への交通費（燃料)、食費、消防機材を動かすガソリン、人件費などを目的とした支援金に対し、素敵なリターン（贈り物）を用意しています。皆様、是非ご協力下さい！！

アブラヤシ企業は消費者の力で変わる（その1）

神前進一

IOI 社の衝撃

2016 年 3 月 25 日，パーム油関連食品業界に大きな衝撃が走った。世界最大のパーム油認証団体 RSPO（持続可能なアブラヤシのための円卓会議）がマレーシアの多国籍企業 IOI グループに対し，認証取り消しの処分を発表したのである。このため世界の巨大食品企業は相次いで IOI 社からの原料調達を中止し，調達先を切り替えた。実効性や信頼性を疑問視する声が絶えなかった RSPO が持続可能なアブラヤシ産業に企業を向かわせることを認識させる画期的な出来事といえる。

認証取り消しの経緯

この認証取り消しに至ったのは，IOI 社のインドネシア子会社 3 社が西カリマンタン州クタパンで新規に開発したアブラヤシ農園が，RSPO が会員に遵守を求める行動原則と基準（Principles and Criteria）のうち原則 2（法令遵守）と原則 7（責任ある新規植栽）に違反したと RSPO の苦情パネル（complaint panel）が裁定したからである。この問題は FoE オランダの Milieu Defensie が 2010 年以来告発してきたのもので（*Too Green to be True*），2015 年 4 月の苦情申し立てに対する審査や聞き取りの結果，2016 年 3 月 25 日に最終決定が下され，4 月 1 日から IOI 社のパーム油に対する RSPO の認証が取り消された。IOI 社はこの決定に対して，直ちに是正報告書を RSPO に提出するとともに，違反したのはインドネシアの子会社で，精製・販売を担うオランダに本社のあるグループ会社 Loders Croklaan 社は対象外と反論したが認められず，IOI グループ全体に処分が適用された。IOI 社は 5 月 9 日，この決定に対する異議申し立て訴訟を，RSPO の本部のあるチューリッヒの裁判所に起こしたが，最終的に 6 月 7 日にこれを取り下げ，是正報告書を実施することで制裁解除を目指す方針に転換した。

RSPO の認証制度

RSPO は持続可能なパーム油の生産，調達，融資，使用を促進するために，2004 年に WWF が呼びかけ，栽培段階から油脂化学最終製品まで各段階でのさまざまな企業，金融機関，NGO 等のステークホルダーが参加して結成された。持続可能なパーム油のサプライチェーン全体にわたる信頼できる世界的基準を持つ認証団体として圧倒的な影響力を有している。現在では世界のパーム油生産の 21%，年間 1100 万トンが RSPO 認証マークを付けて市場に流通しており，環境意識の高いヨーロッパ市場では流通量の約 50%を占める。RSPO は 8 つの行動原則，69 の指標をパーム油認証の基準とし，詳細な報告手続きが定められている。2013 年改定版では原則 7 の新規植栽地の責任ある開発での温室効果ガス排出最小化が強調され，これを受けた 2015 年版の新規栽植手続き（New Planting Procedure）では，原生林，保護価値の高い（HCV）森林，炭素蓄積の多い（HCS）土地，脆弱な限界地，地元住民の土地に負の影響を与えないよう環境および社会的影響評価（EIA，SIA）等の各種報告書提出と，ネット上での公開および 30 日間の意見公募を要件としている。

IOI 社の概要

IOI 社はマレーシアの Lee Shin Cheng 一族の支配する巨大財閥で，1969 年に工業用ガス製造業として出発したが，82 年には不動産開発事業を始め，85 年からはアブラヤシ農園事業に進出し，アブラヤシ生産から油脂化学製品製造までを手掛ける。マレーシアに 15.2 万 ha（80 農園）を有し，2005 年からはインドネシアに進出し，Bumitama 社など子会社が 8.3 万 ha の農園を所有し，オランダ，米国を

含め 12 の精油工場を持ち年間 410 万トンのパーム油の生産能力を持つ多国籍企業で，アジア最大の油脂化学製造企業でもある。IOI 社の農園は世界で最も生産性の高いプランテーションとして知られる（ha 当たり 6.1 トンとマレーシア平均 3.8 トンの 1.5 倍の果実生産量）。RSPO の 2004 年の創設時からの主要メンバーであり，2008 年の認証制度開始時から認証を受けてきたが，インドネシアへの進出後は森林や泥炭地破壊，地元コミュニティとの紛争の告発が絶えなかった。FoE によると，インドネシアの法律に違反し林業大臣の許可を受ける前に農園開発に着手したり，環境影響評価の承認なしに開発を進めたり，泥炭地の破壊と森林火災を新規開発農園で繰り返してきたと批判されてきた。

IOI 社からの調達を停止した企業

IOI からパーム油を調達する顧客企業には食品から油脂化学産業まで世界の大手企業が名を連ねているが，RSPO の認証取り消しの通知を受け，英・オランダの消費財製造巨大企業 Unilever 社が IOI 社から調達を中止すると発表したのを皮切りに，日本でもよく知られた食品企業の Kellogg 社，Nestle 社などが相次いで IOI からの調達を他社に切り替えると発表した。日本企業では 1 か月以上遅れて 5 月 18 日に花王が IOI からの調達中止を発表した。Nestle 社は 2009 年や 2012 年にも UNEP や Greenpeace の指摘に基づき一時的に IOI 社からの調達を中止したことがあり，Kellogg 社も紛争の報告に基づき今年 1 月以来 IOI からの調達を段階的に減らす措置をとっていた。

ブランドの信頼性を高めるエコラベル

アブラヤシ農園による森林や泥炭地の破壊，地元コミュニティの土地境界侵犯などの批判の高まりに対応し，アブラヤシ企業は野焼きゼロ（zero burning）方針，温室効果ガス削減，児童労働・強制労働禁止などの CSR 指針を掲げ環境・社会監査報告を公表し説明責任を果たすようになった。一方，消費者の信頼を得て購買意欲を高めるため，さまざまなエコラベや謳い文句を付けた製品を市場に投入するようになった。「動物に優しい（animal friendly）」，「紛争のない（conflict free）」などの形容詞を付した倫理的な（ethical）パーム油が欧米市場で消費者の支持を得ている。パーム油から作られた「トラに優しい」と銘打ったマーガリンの消費者の購買意欲を調べた研究では，環境影響に優しいとされる製品には高い値段を払ってもよいとの結果が得られたとされる。日本でも赤色の高級パーム油を販売しているカロチーノ社は「オランウータンに優しい（orangutan friendly）」というロゴを 2009 年以来使用している。オランウータンの生息しない半島マレーシア産のパーム油を特殊製法で精製しているが，オランウータンをロゴに入れることで消費者にアピールする販売戦略をとっている。

持続可能なアブラヤシ生産への道

消費者が手にする最終製品製造企業もライフサイクルを通じた持続可能性を掲げるようになったが，実際には原料のパーム油調達先企業の農園レベルまでさかのぼって確認することは不可能である。こうしたなか，2016 年 6 月初旬，WRI（世界資源研究所）は搾油工場ごとに周辺の土地利用変化を分析し持続可能性を判定する新たなツール PALM Risk tool を公表した。これは企業がパーム油調達先の持続可能性を農園レベルからのサプライチェーンで知りたいとの要請に基づいて開発されたもので，ユニリーバ社の調達先をこのツールで分析したところ 29 の工場が将来的に森林破壊を引き起こす可能性があるとの結果が示されたという。これは農園企業が環境的に持続可能な方向に変化することを促すものと期待されている。

国際環境 NGO によるアブラヤシ関連企業の環境配慮ランク付けについて次回は述べることにする。

主要出典：Mongabay.com，The Star，RSPO 資料，FoE 資料，IOI 社 HP

「インドネシア泥炭復興庁と京都大学によるシンポジウムの報告」

青木　亮隆

はじめまして。2015 年よりウータンにて活動を始めた青木亮隆です。現在は大学院の修士１年生で、その縁もあってシンポジウムに参加することができたので、そちらを詳細に報告しようと思います。

本シンポジウムは、2016 年 4 月 25 日に京都大学百周年時計台記念館で開催されました。インドネシア泥炭復興庁・京都大学・人間文化研究機構が、インドネシアで発生している泥炭湿地林の問題に対処していくために、この場で共同声明を発表しました。今まであまり真剣に本問題に取り組んでいなかったように見えたインドネシアが、重い腰を上げた瞬間であり、今後の解決へとつながるまたとない機会ではないでしょうか。

シンポジウムは２部から構成されており、１部ではインドネシア政府・泥炭復興庁長官とリアウ州知事の大物２名から、泥炭湿地林に関するプレゼンテーションが行われ、２部はインドネシア料理をふるまう立食パーティが催されました。１部で発表された２つの研究は非常に興味深い内容であったため、下手な日本語要約でありますが少し記載しようと思います。

① 泥炭復興庁長官 タイトル「Peat is wet: Reforestation for improved livelihood」

２０１６年１月に、荒廃した泥炭地を修復するために、インドネシア泥炭復興庁（BRG）がインドネシア大統領により設立されました。BRG の戦略は、水文システムの制御、泥炭地の植生修復、泥炭地管理と農村開発の融合などが挙げられます。これらを成功させるためには、泥炭地のゾーニング、政策の統合といった活動が必須であります。BRG の目標は、インドネシアのスマトラ、カリマンタン、パプアの泥炭地を２２９万ヘクタール再生することであり、そのために多くのステークホルダーと連携していく所存です。

←発表の様子

② リアウ州知事　タイトル「Fire prevention strategy and developing sustainable livelihood Sago Palm in Riau peatland Governor of Riau Province」

リアウ州は、５７０万ヘクタールもの泥炭地に覆われた地域です。そこでは、異常気

象、パームオイル企業による火入れなど、いくつかの要因により火災が発生しています。２０１５年にも泥炭地の火災は発生しましたが、火災のホットスポットが４３２３か所あった２０１４年に比べて、１８３０か所へと減少しました。また、泥炭湿地林の修復プログラムとしてサゴヤシが注目を集めており。森林修復や運河のせき止めによる泥炭地の水量管理などに利用していくでしょう。

このように、どちらの人物も大きな泥炭湿地林の修復に向けて大きなプロジェクトを進めていく予定であり、今後の動向から目が離せません。

2 部ではインドネシア料理を食べる機会があり、1000 円の参加費でたらふく食べることができました。

立食パーティ→

そして食べるのに集中していて最初は気づかなかったのですが、よく周りを見渡せば様々な研究機関に属する先生方や、JICA の方までいらっしゃいました。京大の先生はもちろんのこと、北大の先生も来られていたようで、このプロジェクトは多くのお偉いさんが携わっていることが分かりました。これだけの人材とお金が集まるプロジェクトですから、5 年後には目に見える成果が出ていることが容易に予想できました。

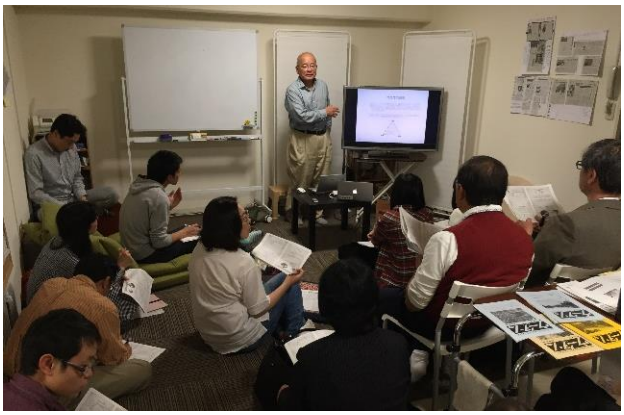
北大のＯ先生

集合写真

泥炭湿地林が森林火災により焼失し、大量の二酸化炭素が排出され地球温暖化が加速し、火災により生物多様性が失われているインドネシアにおいて、本プロジェクトが円滑に進むことを心より願います。

パーム油学習会第4弾「システム思考で考えるパーム油事情」の報告

前川 有



４月２４日に行われた学習会の報告です。講師は、鈴木秀男さん。製油会社に長く勤めておられた方で、環境問題にも取り組んでこられた方です。今回、お話いただいたのは、パーム油の「いいところ」。これまで、私たちは、主にパーム油の生産時の環境破壊といった負の部分に焦点を当ててきました。

しかし、なぜ、パーム油は生産量が増えてきたのか、また、なぜ、日本のパーム油輸入量が増えてきたのかについて考える時、パーム油の消費時の利点についても知っておくことは、必要なことだと思います。

油は相場商品

パームも大豆も油はほとんど全部相場で動いています。食品の中で一番激しく動きます。アメリカで大豆が豊作だと言うとすぐに日本の油の値段がガーッと下ります。反対に不作だと言うと上がります。パームも同じ油業界ですので、連動して上がったり下がったりします。パームもそういう相場商品の中に入っています。

油とカス（ミール）

大豆は、油が２０％。絞った後の大豆粕、すなわちミールに当たるのが、残りの８０％、菜種は４０％が油、６０％がカスになります。カスといっても大豆の場合は５０％くらい、菜種の場合は３５％くらいのタンパク質があるので、飼料などになります。

大豆が安いからといってたくさん絞るとカスがたくさんできる。会社として事業を起こしている以上、こっちのカスも利用できないと困るわけです。製油業界は、油とカスのバランスをとるわけですが、これが非常に難しい。

カス（ミール）は３ヶ月くらい先の売買をします。いま４月なので、「７月以降のミールを買ってくれませんか？」と言って、売り込みます。そして、ミールの商売が成り立った時点でミールに必要な分だけの大豆、菜種を買う。相場商品なので、国際価格での値段の上げ下げがあるわけですが、安いからといってたくさん搾るとミールが溜まってしまうわけです。

植物油脂の大量生産

２０世紀半ばを過ぎる頃、食品会社や製油会社が機械で油を搾るようになります。綿花、大豆、コーン、菜種などを搾って油脂が大量生産ができるようになった。私がいた会社でも、菜種なら１日に１５００トン搾れます。日本の国産の菜種を全部集めても１週間くらいで終わってしまうぐらいのスピードで搾りますので、コストが安くなった。だから、植物油脂からマーガリンやショートニングが大量生産できるようになったということです。

パーム油の脂肪酸組成

パーム油の脂肪組成はパルミチン酸４４％、オレイン酸３９．２％の２つで８０％以上を占めます。パルミチン酸は、二重結合を含まないですし、オレイン酸は二重結合を一つしか含んでいません。この二重結合がないほど酸化しにくい、すなわち、油としては安定性があるんです。これがパーム油の一つの特徴です。

日本で再精製されるパーム油

日本に輸入されるパーム油は、輸出国ではすでに製品として使われているものです。原油は輸出できないので製品を出すわけですが、日本では色が濃い、味が悪いといって再脱色や再脱臭をして、再精製をします。

油の加工

油の加工には、調合、分別、水素添加、エステル交換４つの方法があります。この中でパーム油の加工に使われるのは、「分別」です。

調合とは、２つの油を混ぜて両方のいいところを出すように合わせる方法です。

分別とは、融点の違いを利用して成分ごとに分ける操作のことです。

水素添加とは、二重結合のあるところへ水素を添加する方法です。そうすると、二重結合が取れて飽和脂肪酸になって安定して、液体の油が固体になります。体に良くないトランス型脂肪酸ができます。

エステル交換とは、脂肪酸組成を入れ替える方法です。

パーム油の分別

もともと搾った油は固形です。それを温度を上げて溶かした後、温度で液体分と固形分を何回かに分けて行います。

そして、①液状で酸化安定性の良い成分、②カカオ脂のよううに常温で固形で口どけの良い成分、③石鹸や界面活性剤に適した成分に分別します。こうやって、用途の違ういろんな分野に使えます。

１つの油から、大豆油・菜種油のような液体として使える部分とチョコレートに使える部分と石鹸に使える部分といった具合に多種多用に使える油はパーム油しかない。しかも世界で一番大量に作られていて安いので、普及するのは当たり前といえるわけです。分別の工程は、輸出国の現地で行われて日本に輸入されます。

カカオ脂の代替

チョコレートは、カカオ脂を使うのですが、カカオ脂とチョコレートの生産量を見たら全然合わないんです。なぜかというと、植物油脂で代替しているからです。植物油脂で分別とか水素添加とかエステル交換をして、カカオ脂に似た組成の油に変える技術を駆使することで行います。カカオ脂は３３度くらいでパーっと溶ける、舌の温度でパーっと、だから美味しいんです。

先ほどの水素添加ですが、二重結合のあるところへ水素がつくと硬化油になります。液体の油が個体に変わる 液体油から硬化油に変わる。なぜそんなことをするか？といいますと、カカオ脂のようなものを作りたいから。でも、そんなことしなくても、パーム油を分別することによってできる。こっちの方が早いですよね。

パーム油の輸出国と輸入国

輸出国は、インドネシアとマレーシアで、９０％を占めています。輸入国はインドが１７％、中国が１６％で多いです。こう見ると日本は少なくて２％です。

パーム油の表示について

原材料表示に、植物油と書いてあってパーム油と書かれていないのはなぜですか？とよく聞かれるのですが、あれは、食品衛生法上、多い順に書くようになっているので、法律が変われば書くようになると思います。

それに、パームだけが問題ではないと思います。大豆はアマゾンの熱帯林の問題があります。

パーム油のメリット

常温で固形の油脂なので、常温でベトベトせず、スナックや米菓などに適しています。また高い酸化安定性により、粘土上昇率が上がりにくく、汎用フライ油へのブレンドに適しています。

パーム油のデメリット

常温で固形のため、使用する時に溶かす手間がかかる。タンクや配管内で固まる可能性もあります。また、新油時の酸価、色が他の液体油より高いので、酸価、色を廃油の基準としている場合廃油のタイミングが難しい。

そして、淡白な風味はコクが無く物足りない感じがします。またパーム油独特の匂いがあることです

伊勢志摩サミットへの参加を通じて

Gyro 加納

5 月 23～27 日
関西 NGO 協議会さまの紹介で、石崎事務局長と伊勢志摩サミットに参加しました。
記者会見の場を提供されるなど、進め方を工夫すれば大きなアピールの場を得る門戸があると感じました。
主たる目的:「12 人の消防戦士」を中心とする FNPF, Care for タンジュンプティンへの消火設備提供、資金、支援先の模索及び、国内外 NGO への呼びかけと、海外アジア NGO やメディアへのアピールについての情報収集でした。

サミットとウータンの活動の関係性：ウータンの活動は、グローバルリスクとして周知されている、気候変動や森林破壊とも当然関わりが深く、伊勢志摩サミットにおける国内 NGO の主要議題でもあった、持続可能な開発目標(SDGs)視点で"見える化"の実現。
(※詳細はウータン WEB サイト参照)

結果は次の通りです。できたこととして、1)支援先情報収集 2)ウータンの活動の国内 NGO への関係作りとアピール 3)国際会議でのメディアへのアピールの仕方と関連手続きについて情報取得 4)一部メディア、SNS への露出 5)(首脳宣言のタイミングと重なった為、アピール度は低い結果でしたが、サミット NGO ワーキングスペースでの)記者会見への参加
(参照：記者会見スケジュール画像)
※SNS へサミット関連の投稿を行うことで普段の数倍の「いいね」が着いたことを考えると、普段ウータンの活動に興味を持っていない層への訴求効果大と思われます。

できなかったこと：1)消火設備、資金へのコミットメントには至らず 2)海外アジア NGO やメディアへのアピールは G7 ということからか、同 NGO やメディアは見当たらず、話をするに至りませんでした。

その他：サミット自体の内容は他の NGO の評価にありますように芳しいものではありません。しかし、ウータンが関わった国際会議等での手掛かりを元に、今後の活動に活かしていけると考えます。

ウータン緊急報告会

「インドネシア森林火災対策に向けて、いま日本からできること」報告

ゴールデンウィークにボルネオ島を訪れた武田さんと石崎さんが、少しでも早く現地の最新の動きを報告したいということで、6月5日（日）に緊急報告会を行いました。

当日は、二人の報告の前に、2月にハラパン村を訪れていた神前さんにハラパン村周辺の森林火災の被害の状況や、近隣の移住者の村の様子、ハラパン村の周辺や現地のＮＧＯであるＦＮＰＦ（国立公園の友基金）の活動地の状況を写真を使ってわかりやすく説明していただきました。

つづいて、武田さんがこれまでの活動の概略と森林火災について、また今回の訪問で支援物資を届けたこと、現地で今消防チームが立ち上がっていること、ＦＮＰＦなど現地で活躍しているたくさんの人たちの紹介、森林火災をきっかけに結成されたケア・フォー・タンジュンプティンについても説明をしてくれました。そして最後にＦＮＰＦの実質的リーダーであるバスキさんについて、少し詳しく話をしてくれました。

最後に、石崎さんがＦＮＰＦ以外のウータンが連携をつづけてきたインドネシアのＮＧＯのメンバーについて紹介をし、福岡市の消防局が集めてくれた消防機材を森林火災対策とし、て、現地に送れないかなど、今、日本からできることはないかという問題についても話がありました。

広報はネット中心で、短い時間しかとれませんでしたが、２０名をこえる参加があり、そのうち、ウータンの集会には、はじめて参加したというかたも何人かおられました。また、いろいろな分野の研究や活動に関わっておられるかたもおられ、質問だけでなく、報告に補足していただいたり、意見を出していただいたり、とても有意義な集会となりました。

報告会終了後、神前さんがつくられている有機野菜を中心とする神前さんの料理をたべながらの懇親会が行われ、多くの方々が参加されました。

※本誌のｐ５～ｐ９もご覧下さい。（文章：米澤）

World Forest News　世界の森林ニュース

2016 年 3 月～5 月　　by S.Kohsaki

【リアルタイムで違法伐採を監視する新システム】
米メリーランド大学とグーグル社は衛星画像で新規伐採道路を毎週解析することにより新たな伐採を自動的に通知する GLAD と呼ばれる新システムを開発。[Reuter 3 月 2 日]

【中国の木材輸入が大幅に減少】
ITTO 報告書によると世界最大の木材輸入国である中国の 2015 年の木材輸入は前年比で量が 13%，金額が 32%減少。中国経済の減速によるもので，温帯・冷帯からの軟木の輸入減少が大きい。[Mongabay 3 月 4 日]

【スマトラのオランウータン頭数が 2 倍以上との研究】
スマトラ島に生息するオランウータン頭数はこれまでの推定 6600 頭の 2 倍以上の 14600 頭との研究結果が発表された。未調査であった高地や劣化した森林での調査結果によるが，森林破壊が続けば今後 15 年間に 14～33%減少すると予測。[Mongabay 3 月 4 日，3 月 12 日]

【ガハルが密伐採で絶滅の危機に】
世界で最も高価な香木ガハル（沈香）の伐採はワシントン条約で禁止されているが，インドや東南アジア諸国では沈香を探してガハルの無差別伐採が絶えず，野生ガハルの絶滅が危惧されている。[Mongabay 3 月 9 日]

【フランスが食用パーム油への課税を決定】
フランス議会は生物多様性法の一部として食用パーム油に対し来年からトン当たり 30€，2020 年には 70€の新規追加課税を決定。マレーシア，インドネシア両国は強く反発し，インドネシアは WTO に差別関税として提訴。[Reuter 3 月 18 日，Mongabay 3 月 24 日]

【RSPO が IOI 社の会員資格停止処分】
RSPO の苦情パネルはマレーシアの多国籍企業 IOI グループに対し，インドネシア西カリマンタン州での農園開発時に新規開発規則に違反したと判定し，会員資格を停止。この決定を受け，RSPO 認証のパーム油を調達する Unilever，Kellog，Nestle など世界の主要食品・油脂企業が相次いで IOI 社との取引を停止。
[Mongabay 3 月 25 日，4 月 5 日，4 月 11 日]

【中国の森林回復は他国からの輸入に依存】
中国政府が 1988 年の大洪水を機に導入した天然林保全計画（NFCP）の結果，森林被覆は 2000～2010 年に 1.6%増加したとの衛星画像分析結果を米大学が発表。他方，東南アジアやアフリカでの森林破壊を加速する世界最大の木材輸入国となった。[Mongabay 4 月 6 日]

【インドネシア大統領が新規アブラヤシ開発を禁止】
ジョコウィ大統領はアブラヤシと鉱山の新規開発許可の凍結を発表したが，法的拘束力はなく，政府の規制が必要で効果を疑問視する声も。グリーンピースによると 2011 年の泥炭地林等伐採禁止令に違反する農園が 1404 ヵ所あり見直しが必要。[Mongabay 4 月 16 日，5 月 4 日]

【ペルーのアブラヤシ農園に RSPO が操業停止命令】
RSPO の苦情パネルはペルー企業プカルパ社に対しアマゾン地域でのアブラヤシ農園が先住民シピボ人の先祖伝来の森 5000ha を事前合意なしに破壊したことにより操業停止を命令。[Forestpeople 4 月 26 日]

【ミャンマーの伐採禁止報道は駆け込み伐採を加速】
ミャンマー新政権が 1 年間の硬木の伐採禁止措置を導入すると報道され，チーク材等の駆け込みの伐採が加速したが，その後上級官僚が禁止措置導入を否定。
[Mongabay 5 月 9 日，Reuter 4 月 28 日]

【EU とインドネシアが合法木材輸送免許制度開始】
EU は反違法伐採行動計画（FLEGT）に基づく合法木材輸送免許制度の二国間貿易協定に参加を表明していた 15 か国のうち，インドネシアがまもなく初の制度実施国となると発表。[Mongabay 4 月 28 日]

【農園開発で火を放った森林を没収する法律】
マレーシア環境・天然資源相はアブラヤシ等の植栽を容易にするために森林に火を放った土地は，小農か大農園企業かを問わず，州政府が没収することができる環境保護法の改正を提案。[Mongabay 4 月 29 日]

【シンガポールとインドネシアが煙害対策で対立】
シンガポール政府は越境煙害汚染法に基づきインドネシア企業 6 社に昨年の森林火災に対する罰金支払いを求めたが，インドネシア環境相は両国間の煙害に関する協力関係を解消すると抗議。[Mongabay 5 月 16 日]

【インドネシア政府が村の森林火災予防組織を編成】
インドネシア政府は全国 600 村で森林火災のホットスポットを監視する住民組織を立ち上げる計画を発表。
[Jakarta Globe 5 月 25 日]

【ノルウェーが森林破壊ゼロの公的調達を決定】
ノルウェー議会は世界初の公的調達で森林破壊ゼロの方針を政府に勧告。木材だけでなく，パーム油，大豆，牛肉などもサプライチェーン全体で森林破壊を生まない製品に限る画期的な方針で，詳細は今後政府が決定。
[Mongabay 5 月 26 日]

会計より（ 2016.3.7～2016.6.10）　（敬称略）　　井下祥子

会費をいただいた方

インドネシア火災支援カンパをいただいた方

引き続き「インドネシア火災寄付」募集中です。現地のためだけでなく、温暖化を防止し、様々な資源を私たちに届けてくれる貴重な森を守るためにも、力をお貸しいただければ幸いです。
（会費を頂いた方も含め、すべての方に振込用紙を同封しております。ご了承ください）

☆学習会「システム思考で考えるパーム油事情」講師の鈴木秀男氏と、インドネシア報告会講師の神前進一先生は謝礼（わずかですが（^_^;）を辞退されました。ありがとうございます。
また、神前先生は、ご自分でつくられた多種の有機無農薬野菜を持参、ほとんど1人で幾皿もの料理を作ってくださいました！インドネシア、マレーシアなど、様々な美味しい料理に一同感激！

消火等で森へ入る時使う中古ザックをいただいた方

複数提供していただいた方もあり、おかげさまで10数個集まりました。順次現地に渡しています。ありがとうございます！（現地に行く者に手渡しされて、お名前掲載からもれた方などありましたら申しわけありません）

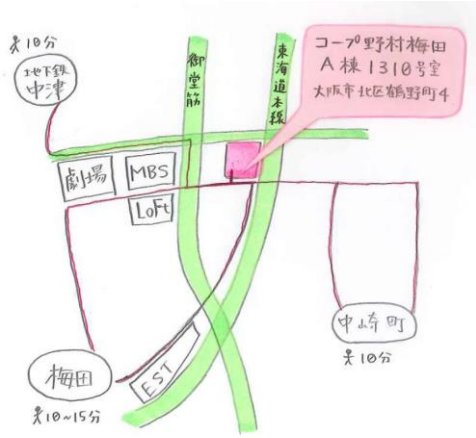
振込用紙をもって領収に代えさせていただきます。
領収書がご入用の方は、お手数ですが振込用紙にその由ご記入ください。
ウータンへのご要望・ご意見などもお寄せください。（掲載させていただくこともございますので、掲載不可の場合はお手数ですが、お書き添えください）

ウータン・パーム油学習会第5弾

「アブラヤシ企業はかわるのか？」

講師：神前進一さん

日時：７月９日（土）14:00～16:00



場所：**ケイゾクエナジー**（コープ野村梅田1310号室

大阪市北区鶴野町４　http://www.keizoku-energy.com/）

今年、パーム油関連業界に大きな衝撃が走りました。RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）がマレーシアの巨大パーム油企業 IOI に対して認証を取り消し、世界の食品企業は相次いで IOI 社からの原料調達を中止したのです。いま、パーム油に関わる企業は持続可能性が問われています。「アブラヤシ企業は変わるのか？」をテーマに議論したいと思います。

神前進一さんは元大阪大学人間科学部准教授で、サラワクの社会を中心に研究されています。能勢と箕面で、畑を耕して、有機野菜を栽培されています。

定員２０名（講演会終了後、有機野菜の料理を食べながら、懇親会もやります。）

参加費：５００円、（懇親会は別に１０００円必要です。）

※申し込み・問い合わせは、石崎（info@hutangroup.org 090-8145-1146）まで

☆今年もやります！ウータンボルネオエコツアー

今年のテーマは「豊かな森の再生をめざして」　日程：８月２６日(金)～９月２日(金)　くわしくは http://myticket.jp/archives/hutan1608.html（マイチケット）をご覧下さい。

☆インドネシア大規模森林火災緊急募金のお願い

タンジュンプティン国立公園付近の森林火災にたいして、最前線で消火活動をつづけてきたバスキさんをはじめとするＦＮＰＦのメンバー達。予想される今年の森林火災に備えるために活動していますが、いろいろな機材や資金が圧倒的に足りません。是非、募金にご協力ください。送金先はつぎの通りです。

ゆうちょ銀行　００９３０-４-３８８０ ウータン・モリトセイカツヲカンガエルカイ

※「インドネシア火災寄付」と用紙に記載してください。

☆クラウドファンディングも開始！CAMPFIRE というサイトで「ボルネオ」で検索してみてください。

https://camp-fire.jp/projects/view/6983　７月 20 日まで実施　（支払い方法はいろいろあります。）